

桐鈴凛々

第96号
平成26年7月10日発行
発行責任者
社会福祉法人 桐鈴会
理事長 黒岩秩子
南魚沼市浦佐 5142-1
電話 025-780-4118
FAX 025-777-3731
e-mail
suzukake@rose.ocn.ne.jp
http://www17.ocn.ne.jp/~tourei/

桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
・高齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが
安心して住める地域を創ろう



表現のチャンスを

— 機器が育む知的・発達障がい者の
コミュニケーション能力 —



桐鈴会評議員 井口美賀

5月12日、「新潟市障がい者ITサポートセンター」の林豊彦センター長（新潟大学工学部福祉人間学科教授）をお迎えして、凛々94号でお知らせした勉強会が、夢草堂で開催された。意思疎通が出来ないと思われてきた重度障がい者も、IT機器によって、それが可能になるかも知れない。

日頃、言葉が往来する環境で、一方的に聞かされ続けて育ってきた重度障がい者は、自分から表現しなくても、心の中に、その人なりにピックアップした言

葉や思いをため込んでいるのかも知れない。以前紹介した『重度の障害児たちが語り始めるとき』（中村尚樹）では、その「実例」が紹介されていた。適切な手段さえあれば、自己表現の可能性があるのでないか。

勉強会では、個々で残存機能は違うが、その使える機能を最大限に使って、意志を表現できるようにする方法や様々な機器が紹介された。「AAC」（拡大・代替コミュニケーション）という方法

である。現実には即した具体的な臨床活動であり、以下のように分けられる。

- 1 非エイド（指談、筆談、身振り、サインなど）
- 2 ローテク（実物、絵カード、写真、シンボル、五十音表など）
- 3 ハイテク（VOCA：音声出力装置、意思伝達装置など）

その実施にあたっては、
・当事者の障がいや生活について深く理解する
・当事者にわかるように伝えて、意図を正しく理解する

・「できるやり方」で表現するチャンスを増やす
ということが重要である。

まずは「わかっていないこと」「わからないこと」を明確にし、「わかっていないもの」「好きなもの」「関心が高いもの」を使っ

てゆっくり反応を待ち、「意図が正しく伝わった」という成功体験を気長に積み重ねていく方法である。

考えてみれば、重度障がいの息子（26歳）の自己表現はほとんど私に都合のいい解釈で今まで過ごしてきたように思う。彼は比較的はつきりと好悪の表現をするが、体に力を入れる、目に力を込めるなど、何気なく見ているのはわからない返事もよく返すのである。

「見える」反応が返ってくるものだというコミュニケーションの常識が、重度障がい者からの表現を受け取れなくしているということ、まず自分で再確認できた。

世界ではすでに日常化しているという「AAC」という方法をぜひ、たくさんの方のコミュニケーション

シヨン不可能と思われるが、
たちが試してほしいと思う。

自己表現は誰もが持っている
権利であり、障がいによってそ
れが困難な人でも、関わる私た
ちは、その権利を出来る限り守
りたいと思う。とくに重度障が
いの幼い子どもたちには、早い
時期から、学校などでの実施が
望ましいと思う。

実際に「AAC」実施の様子を
見たことがなく想像するだけな
ので、なかなか積極的に考えら
れないが、とにかく息子に合っ
た方法を見つけて、「AAC」を
試してみたい。何らかのプラス
の変化を楽しみにしている。

これから重度障がい者が意思
表示できるこうした機器がどん
どん開発され、方法も充実して
いくことを願っている。日本と
いう、全体的な空気や情緒、協
調性などで物事を進めがちな社
会では、困難な場合も多からう
と思う。とくに、学校や医療、
福祉といった、大きな組織、流
れのなかに、このようなごく少
数のための実践を取り入れるに
は。お金や人員、時間の面で受
け入れにくかったり、躊躇され

たりすると思う。実際、林さん
は、県内のある支援学校で「う
ちのクラスでは今のやり方でう
まく行ってますから」と、導入
を見合わされたとおっしゃった。
学校は機器による取り組みをあ
まり好まないようだと。も
でも取り入れることによつ
て、自己表現しないと云われて
きた一人一人に、かけがえのな
い自分だけの「表現のチャンス」
が訪れるとしたら、どんなに素
晴らしいことだろう。

「林豊彦先生の講演を聞いて」 安田恵子（魚沼市在住）

林先生の講演は、今まで重い
障がいを持ち知的にも発達は難
しいと、医師から言われていた
息子にも、もしかしたら成長で
きるかもと思えた講演でした。
前半のお話では、日本は世界
に比べて障がい者が生活する環
境が遅れているという事をおっ
しゃっていました。

例えば、欧米では重度の障が
い者の車イスに、その人が言葉
を発する事ができるように、コ
ミュニケーションエイドを取り

付けている光景が、あたり前と
いう事。

アメリカでは、長距離バスに
は必ず、車イスを乗せるスペー
スと設備がある事。またコピー
機も音声案内があるもの以外、
売ってはいけない事など。欧米
は、権利を主張する文化。日本
はやさしく守る文化という違い
が影響しているようです。

林先生は、新潟市のITサポ
ートセンター長をされていて、
新潟市内で、家庭や学校、言語
聴覚士や技術者などで支援チー
ムを組織し、障がいを持った子
のニーズに合った支援を行って
いるとの事でした。話したくて
もどうやって話をしたらいいの
かわからない子どもなどに、コ
ミュニケーションの方法、又、
機器など
も工夫さ
れている
ようだし
た。

息子の
通ってい
る特別支
援学校で
も、ヴォ

赤い羽根共同募金助成車両

平成 25 年度社会福祉法人新潟県
共同募金会(新潟県共同募金会南魚
沼市支会)から、工房とんとんの送
迎用車両の整備費として、
1,159,000 円の助成を受けて購入
した福祉車両(車いす 1 台積載、軽
自動車)が、5 月 27 日に納車にな
りました。利用者の皆さんの送迎用
等にフル活動しています。

助成を決定して下さった社会
福祉法人共同募金会に深く感謝申
し上げます。

ありがとう
ございました。



カ(音声出力型コミュニケーション
シヨンエイド)などを使用してい
ますが、新潟市内のように、チ
ームで支援してもらえたら、子
どもの能力が、ずいぶん伸びる
のではないかと思います。
また、林先生は、障がいを持
つ人は、質問に対して、体のど
こかを動かして、応えようとし
ているとも話されていました。
息子の場合、障がいが高く、
まずは「自分の行動が他の人に
影響を与える」ことに気づく事
からだと思えますが、先生の講
演を聞いて息子には、何ができ
るだろうか、できる事を伸ばし
ていったら、いつか息子とコミ
ュニケーションがとれるのでは
と、希望の持てる、講演でした。

工房とんとん



「すずカフェable」に 自動販売機設置」

6月6日、「すずカフェable」店舗前に自動販売機を設置しました。

設置理由は、①暑い夏に八色の森公園に來ている方々が利用できること。②売り上げが利用者さんの工賃に結びつくこと。③売り上げの一部が難病で苦しむ方々の支援として、自動的に寄付できること。④空き缶が「とんとん」で行っているリサイクル活動へと繋がること等です。是非とんとん前の自動販売機を活用し、利用者の皆さんへの支援にご協力ください。

(工房とんとん管理者

星野淳子)

「はじめての日帰り旅行」

5月25日(日)の休日を利用して、利用者・職員の24名で旧塩沢町舞子の「外山康雄・野の花館」、「和風いん越路」(おいしい昼食会場)、「道の駅雪あかり」に行つて來ました。皆さん

が楽しい楽しいと言つて喜んでくれたのが印象的でした。利用者の皆さんが、素敵な思い出づくりの一日になったことは間違いなかつたようです。

来年も実施をしたいと考えるよい機会となりました。

(工房とんとんサービスマネージャー 湯本利恵子)



「道の駅雪あかり」で記念写真。はい、チーズ！

子さんは埼玉県の同じ楽団で岸本祐有乃さんに指揮してもらっている方々です。

「一緒に歌いましょう」と演目は地域に縁のある唱歌や懐メロでした。

夢草堂は鈴懸や外部からいらつしやつた人でいっぱいでした。その大勢の人に混じつた利用者さんには、不安な表情で職員を探す姿が見られましたが、演奏会が始まると、大きな口を開けて歌を歌い、歌に合わせ楽器を鳴らし、アレンジ手拍子に集中し、1時間はアツと言う間のようにでした。

私も楽器の音色に癒され、楽しいそんな皆さんに癒されました。たくさんの刺激を心地よく身体に届ける音楽の力を感じた時間でした。

チェロとバイオリンで 音楽を楽しむ会

グループホーム桐の花介護職員

小川 明子

5月25日(日)、夢草堂でチェロとバイオリンによる演奏会が開かれました。チェロの稲垣憲治さんとバイオリンの鈴木玲



すてきな音色！
楽しいひと時でした。

平成26年度 第1回評議員会・理事会を開催

5月28日(金)に開かれた、桐鈴会理事會・評議員会において、監事から決算等について監査報告がありました。その一部を開示します。

鈴木智子監事から、感想を含め、付帯意見として次の概要報告がされました。

「私は、各部署の業務日誌を参考に業務内容を見させていたいただきました。どの部署も日々高齢者、障がい者に対応されていますが、きめ細かい配慮と様々な工夫や試みを実施している様子があるのがうれし、職員の皆さんの日ごろの努力と職務に対する誇りを感じさせられました。」

*心温まる評価をいただき、ありがとうございます。

(施設長 林幸英)

今年も「深田よしひろジャズピ アノコンサート」を開催します。 どなたでもどうぞ。

◆期日 8月13日(水)

◆時間 午後2時から

◆場所 夢草堂



「井口ヒデノさんを

偲んで」



2月26日

ゆきぐに大和病院入院

5月24日ご逝去(享年91歳)

鈴懸おはようヘルプ

訪問介護員 水落文枝

ヒデノさんに初めてお会いしたのは、去年の3月、私が桐鈴会で仕事をさせていただくようになってからでした。ヘルパーになって間もない私を、ヒデノさんは笑顔で迎えてくださり、色々なお話も聞かせてくださったりして、楽しく仕事をすることができました。

手先がとても器用で、ご自分で作った服やセーター、小物など沢山見せていただきました。また、ケアハウスで使う清拭布はヒデノさんにお願ひすると、アツという間に丁度良い大きさに切ってヘルパー室に届けてくださいました。

月に一回、託老にも参加され

ていました。自分で作った服や編んだ物を着て行かれ、利用者の方とお茶を飲んだり、おしゃべりしたり、スタッフ手作りのお弁当を食べたりするのをとっても楽しみにされていました。

社交的で話題も豊富。利用者の方や婦人会ボランティアの方とすぐに打ち解け、話に花が咲いていました。

今でもケアハウス鈴懸にヒデノさんがいないというのが信じられなくて、そのうちひよっこりと帰って来るような気がしています。目を閉じるといつもの明るい笑顔と笑い声が思い出されます。これからは好きな編み物をしたりして、ゆっくりと休んでくださいね。本当に色々とありがとうございました。合掌。

秩子の部屋

榎本宗俊(本名 宏)さん



桐鈴会の評議員、障がい者グループホームひまわり住人、かつ萌気会(往還堂)堂守り僧の榎本宗俊さんは、いつも自己紹介の冒頭でこう切り出す。「私

は、精神障がい者で…」そのおかげでそこにいた人はみな自分の「秘密」を語りだしてしまう。実は、私が初めてお目にかかった精神障がい者が榎本さんなのだ。40年も前のこと。

Q「あなたの家は薬局だったのよね」

A「薬局と薬店とあるんです。薬局は、調剤ができる人がいるところで、その人は薬大を出ていなくてはなりません。薬店は調剤はできないけど、薬を売ることができるところです。それには、実務経験5年で試験に合格すれば資格が取れます。我が家は、薬局ではなくて、薬店だったのです。明治薬科大学に行ったら、ほとんどの同級生が薬局の親を持っていましたので、私は劣等感を持っていました。父が薬店の資格を取って店を出し、その後母もその資格を取りました。私はその資格がなかったのですが、母が亡くなったら店を閉じるしかなかったのです」

Q「あなたは大学に行っただけで卒業しなかったのね」

A「大学に入って3年になるこ

ろ、気になることがあって精神病(自分の考えていることがみんな人にのぞかれてしまっているという妄想により統合失調症と言われた)になってしまった。家に戻ってきて小出病院の精神科に入院。その時の医者が『君には病院はよくない、退院したほうがうまくいく』と言って退院させたので、40日だけの入院生活だった。家に3年いて、また大学に戻って8年間大学に籍を置いていたけど、卒業はできなかった」

Q「恋愛とかの体験は?」

A「結婚してもいいと思った恋愛は1回だけあります。8年目の学生生活をしているときに、当時大学自治会の委員長をしていた女性と恋愛関係になりました。でも、私の病気のせいでもうまく付き合えなくて、その後彼女の実家があるF県にまで行ってみたのですが、足取りがつかめませんでした。風の便りによりますと、どこかの大学で研究生を送っているようです」

Q「こっちに帰ってきてからは何をしていたの?」

A「ここらには、文学に親しむ

方が多くて、そんな付き合いが多くなってその頃からたくさん本を読むようになりました。仕事は土方をしていました。土方の給料はよかったですよ」

Q「精神障がいを抱えたまま勤めが続けられたの？」

A「若かったからエネルギーがありましたね」

Q「僧侶の資格を取ったのは？」

A「35歳の時ですが、それまでも仏教の本は読んでいましたから、独学で検定試験を受けて資格をとったのです。母が亡くなって薬店を閉じなくてはならなかったので、50歳の時、三条の寺に僧侶として職を得ました。そこで4年勤めました。病気が悪くなってやめざるを得ませんでした」

Q「その後借金地獄になったのね。女性におぼれたという話を聞いたけど」

A「酒におぼれたんです」

Q「ずいぶん大勢から借りていたのね。その沢山の人間関係には驚きました。そしてその借金返済計画を支援センターの人と立てて2年前にグループホームひまわりに入ってきたのよね。」

それがこの6月できれいに返し終わるのね。障がい者年金と、もう一つ萌気会のお寺《往還堂》の堂守り僧として初めて辞令と言ったね。今月から借金返済がいらないとなったら、そのお金をどう使ったつもり？」



グループホームひまわりの入居者・職員と。前列右端が榎本さん。

A「中古車を安く買うつもりです。そうすればホームシックが解消されると思うので。私の故郷旧守門村には、家も、墓も、土地も何もなくなってしまっているのです。中越地震で家が壊れて、それを解体するために土地を売ってお金を作ったのです。そしてお墓も地蜂にやられて倒れ掛かり、その後、旧守門村の福山にある市営住宅に入っていました。その頃持っていた中古

車を処分してひまわりに入ったのです。その後何かホームシックのために魚沼市への転居を考えました。今、日曜日には、萌気園の車を使わせてもらっているのですが、自分の車ならもっと自由に使えるのでホームシックが解消されるでしょう」

Q「『べてるの家』の本を読んで感激していましたね」

A「ソーシャルワーカーの向谷地生良さんが浦河日赤地域ただ一人のソーシャルワーカーでありながら、考え方の違いから浦河日赤の精神科病棟に5年間も出入り禁止となったり、始めた事業が借金だらけで地域の人たちから後ろ指を指されながらも、踏みとどまって浦河全体を障がい者の町にまでしていったというのは、本当にすごいことだと思います。新潟にも同じような考えでやっている人がいます。月乃光司さんという人が作っている《こわれものの祭典》ですが、自分の障がいを洗いざらい笑いと共に人に語って治ってしまふのです。これだと思えますね」

北海道南部地域にある浦河

町の《べてるの家》は医者がつけた病名のほかに自分でつけた病名（たとえば「逃亡失踪症」）があったり、《当事者研究》と言う形で一人一人の困難を周りの人たちと共有して、研究の対象にしてしまう。浦河日赤病院精神科医者の川村さんは自ら《治せない医者》と名乗っているし、皆で作った事業所は《安心してサボれる》が標語。『べてるの当事者研究―非援助論』『べてるの家』から吹く風』など多数のべてる本がある。

Q「榎本さんのこれからの夢は？」

A「障がい者アートを往還堂で展示していきたいと考えています。私は、長生きしたいとは思っていません。いつ死んでもいい。だけど、生きているならこのことをしていきたいと考えています」

榎本さんの文学評論は、その筋では高く評価されているというのですが、私には難しくわからないのです。ごめんなさい。大変な読書家であることは確かです。

新入居者紹介



ケアハウス鈴懸
水落サダ

こんにちは。浦佐生まれの浦佐育ち、世間知らずで有名な私です。

以前は色々としょとで世話になりました。このたびは入居者の仲間入りが決まり、不安の中ですが、楽しいことに一生懸命希望を持ち、老後を楽しみたく過ごそうと思えます。よろしくお願ひします。



ケアハウス鈴懸
長谷川フミイ

鈴懸に入居させていただき、あれよあれよと思っているうちに、もう1か月も過ぎそうです。何も手につかず、皆様の足手まといになりながらも毎日を過ごさせてもらっております。どうぞこれからも宜しくお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

新入職員挨拶



ケアハウス鈴懸
事務補助員
島村キヨミ

4月末からパートで勤務させていただいています。まだ皆さんの名前と顔が一致しませんが、少しでもお役に立てればと思っております。よろしくお願ひいたします。



鈴懸おはようヘルプ
訪問介護員
鈴木仁美

鈴懸おはようヘルプに登録ヘルパーとして入りました。ちよつと(?)歳くつた新人、鈴木仁美です。利用者さんの名前と顔、サービス提供内容を覚え、早く皆さんと足並みを揃えることができるように頑張りたいと思ひます。見かけたら気軽に声を掛け、応援していただけたらありがたいです。よろしくお願ひします。



ご挨拶



工房とんとん
生活介護看護師
畔上秋代

自宅でアロマセラピーサロンとスクールをやっています。毎日笑顔で頑張りたいと思ひますのでよろしくお願ひします。(4月1日からパート職員として勤務しています)



工房とんとん
生活介護看護師
磯部直子

各利用者さんの個性を大切に、私なりに出来ることをさせていただきます。(4月1日からパート職員として勤務しています)

退職職員挨拶

鈴懸おはようヘルプ

訪問介護員 小関真理

昨年の7月からお世話になりました、11か月という短い間でしたがお世話になりました。ケアハウス鈴懸の入居者でヘルパーを

利用されていない方とは、あまり交流がありませんでしたが、食事の際に利用者さんを食堂に送ると、色々とお助けしてくださりありがとうございました。これから暑くなりますので、体調に気をつけて元気です。でください。



編集後記



桐の花に来て3ヶ月が経とうとしています。仕事ではいつも入居者さんの笑顔にパワーと癒しをもらっています。当たり前ですがその笑顔は9人9色(桐の花の入居者は9人)。そして、そのシワには明治・大正・昭和・平成の世を強く生き抜いた様々な歴史が刻まれているのだと日々感じています。

ついこの間田植えが終わり、弱々しかつた田んぼの稲も今では緑が深くなり、元気に、力強く育っているように、季節の移り変わりの早さを感じます。私自身も稲のように色濃く、力強く成長できるように頑張りたいと思ひます。

(勝又紀子)

平成25年度 社会福祉法人桐鈴会 決算状況

資金収支計算書

(自) 平成25年4月1日 (至) 平成26年3月31日

(単位: 円)

事業活動計算書

(自) 平成25年4月1日 (至) 平成26年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)	
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	72,557,000	72,536,343	20,657	
	老人福祉事業収入	60,463,000	60,460,691	2,309	
	就労支援事業収入	8,850,000	8,869,782	△ 19,782	
	障害福祉サービス事業収入	31,201,000	31,224,498	△ 23,498	
	ショートステイ事業収入	1,650,000	1,652,600	△ 2,600	
	経常経費寄附金収入	1,369,200	1,369,200	0	
	受取利息配当金収入	7,264	10,949	△ 3,685	
	その他の収入	3,072,800	3,081,728	△ 8,928	
	事業活動収入計 (1)	179,170,264	179,205,791	△ 35,527	
支出	人件費支出	122,484,000	122,361,421	122,579	
	事業費支出	34,260,000	33,961,693	298,307	
	事務費支出	20,959,500	20,656,060	303,440	
	就労支援事業支出	8,226,003	8,364,515	△ 138,512	
	支払利息支出	513,000	507,406	5,594	
	その他の支出	2,117,000	2,107,940	9,060	
	事業活動支出計 (2)	188,559,503	187,959,035	600,468	
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	△ 9,389,239	△ 8,753,244	△ 635,995	
	設備整備等による収支	収入			
		施設整備等補助金収入	27,282,000	27,282,000	0
施設整備等寄附金収入		15,982,500	15,982,500	0	
設備資金借入金収入		40,000,000	40,000,000	0	
設備整備等収入計 (4)		83,264,500	83,264,500	0	
支出	設備資金借入金元金償還支出	17,173,000	17,173,000	0	
	固定資産取得支出	66,998,700	66,936,930	61,770	
	設備整備等支出計 (5)	84,171,700	84,109,930	61,770	
施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	△ 907,200	△ 845,430	△ 61,770		
その他の活動による収支	収入				
	その他の活動収入計 (7)	0	0	0	
	支出	投資有価証券取得支出	100,000	100,000	0
		積立資産支出	200,000	200,000	0
		拠点区分間繰入金支出	53,000	0	53,000
		その他の活動による支出	198,400	197,715	685
		その他の活動支出計 (8)	551,400	497,715	53,685
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	△ 551,400	△ 497,715	△ 53,685	
予備費支出 (10)	0	—	0		
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 10,847,839	△ 10,096,389	△ 751,450		
前期末支払資金残高 (12)	54,205,675	54,165,735	39,940		
当期末支払資金残高 (11)+(12)	43,357,836	44,069,346	△ 711,510		

勘定科目		当年度決算	
サービス活動増減の部	収益		
	介護保険事業収益	72,536,343	
	老人福祉事業収益	60,460,691	
	就労支援事業収益	8,869,782	
	障害福祉サービス事業収益	31,224,498	
	ショートステイ事業収益	1,652,600	
	経常経費寄附金収益	1,369,200	
	サービス活動収益計 (1)	176,113,114	
	費用	人件費	122,361,421
		事業費	33,961,693
事務費		20,656,060	
就労支援事業費用		8,695,463	
減価償却費		34,923,972	
国庫補助金等特別積立金取崩額		△ 19,904,675	
サービス活動費用計 (2)	200,693,934		
サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	△ 24,580,820		
サービス活動外増減の部	収益		
	受取利息配当金収益	10,949	
	その他のサービス活動外収益	3,081,728	
	サービス活動外収益計 (4)	3,092,677	
	費用	支払利息	507,406
その他のサービス活動外費用		2,107,940	
サービス活動外費用計 (5)	2,615,346		
サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	477,331		
経常増減差額 (7)=(3)+(6)	△ 24,103,489		
特別増減の部	収益		
	施設整備等補助金収益	27,282,000	
	施設整備等寄附金収益	15,982,500	
	特別収益計 (8)	43,264,500	
	費用	基本金組入額	17,300,000
国庫補助金等特別積立金積立額		27,282,000	
特別費用計 (9)		44,582,000	
特別増減差額 (10)=(8)-(9)	△ 1,317,500		
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	△ 25,420,989		
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (12)	107,728,776	
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)	82,307,787	
	基本金取崩額 (14)	0	
	その他の積立金取崩額 (15)	0	
	その他の積立金積立額 (16)	200,000	
次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)	82,107,787		

貸借対照表

(自) 平成25年4月1日 (至) 平成26年3月31日

(単位: 円)

	当年度末	前年度末	増減
資産の部			
流動資産	86,415,382	185,651,989	△ 99,236,607
固定資産	546,857,327	515,549,852	31,307,475
(基本財産)	491,775,849	338,731,439	153,044,410
(その他の固定資産)	55,081,478	176,818,413	△ 121,736,935
資産の部合計	633,272,709	701,201,841	△ 67,929,132
負債の部			
流動負債	48,994,036	141,158,254	△ 92,164,218
固定負債	86,303,000	60,452,000	25,851,000
負債の部合計	135,297,036	201,610,254	△ 66,313,218
純資産の部			
基本金	158,259,500	140,959,500	17,300,000
国庫補助金等積立金	246,408,386	239,903,311	6,505,075
その他の積立金	11,200,000	11,000,000	200,000
次期繰越活動増減差額 (うち当期活動増減差額)	△ 25,420,989	107,728,776	△ 25,620,989
純資産の部合計	497,975,673	499,591,587	△ 1,615,914
負債及び純資産の部合計	633,272,709	701,201,841	△ 67,929,132

社会福祉事業区分

- ・ 本部拠点区分
- ・ ケアハウス鈴懸拠点区分
- ・ 鈴懸おはようヘルプ拠点区分
- ・ グループホーム桐の花拠点区分
- ・ グループホームひまわり拠点区分
- ・ 工房とんとん拠点区分
- ・ ケアホームおひさま拠点区分

公益事業区分

- ・ ショートステイルーム拠点区分



※25年度決算書類の詳細はケアハウス鈴懸・事務所に常備してあります。ホームページにも掲載予定です。



- ◆ケアハウス鈴懸
- ◆グループホーム桐の花
- ◆工房とんとん
- ◆グループホームひまわり
- ◆ケアホームおひさま

*写真は今年初お目見えの「剣詩舞」の勇姿

桐鈴会 夏まつり

とき 7月25日(金) じかん 18:00~20:30
 ばしょ ケアハウス鈴懸駐車場(雨天中止)

出し物 踊り(剣詩舞、地元盆踊り)、カラオケ、職員出し物など
 屋台店 やきそば、冷うどん、からあげ、工房とんとんパン(現金販売)、わたあめ
 おにぎり、フランクフルト、生ビール、酒、缶酎ハイ、ソフトドリンク
 ヨーヨー&スーパーボールすくい、 } 賞品あり
 ボーリング

☆屋台はチケット制です(100円券、50円券)

H26.7.25
 ソフトドリンク
 無料券
 1枚につき1杯



全盲のご夫婦

大胡田 誠氏 著
「全盲の僕が弁護士になった理由」

TVドラマ化決定!

おいしい あやこ

おおごだ まこと

音楽家 大石 亜矢子氏・弁護士 大胡田 誠氏

トーク&コンサートin南魚沼

「だから無理よりじゃあどうする」の方が面白い!

音楽家の妻、弁護士の夫、お二人とも光のない世界で生きています。
あれこれ失敗しても工夫しながら仕事も子育てもあきらめない姿勢は
私たちに大きな光を与えてくれます。

今回は、ピアノと歌、興味深いトークでいっぱい光を浴びましょう。

日時 9月5日(金)

浦佐小学校体育館 9:35~10:35

総合支援学校2F集会室 13:30~14:30

トーク&コンサート

※ご家族がテレビ出演したDVD鑑賞もあります

入場料 無料

主催 浦佐小学校・総合支援学校

問合せ 浦佐小学校
025-777-2040
総合支援学校
025-773-3770



tigara

おいしい あやこ 大石 亜矢子さん

<プロフィール>

1975年静岡県生まれ。未熟児網膜症により0歳で失明。筑波大学附属盲学校の中学部・高等部を出て、武蔵野音楽大学音楽科を卒業後、音楽家として活動する。2010年、全盲の弁護士・大胡田誠さんと結婚。2011年3月15日、大震災の直後に長女・ころちゃんを出産。2012年7月に長男・響君を出産。盲導犬セロシヤと家族で東京に在住。

おおごだ まこと 大胡田 誠さん

1977年静岡県生まれ。先天性緑内障により12歳で失明。筑波大学附属盲学校の中学部・高等部を卒業後、慶應義塾大学法学部を経て、慶應義塾大学ロースクールへ進み、8年に及ぶ苦学の末に司法試験に合格し、2007年、弁護士となった。2012年に「全盲の僕が弁護士になった理由」を出版(日経BP社)。TVドラマ化が決定しました。



<お二人との出会い>

2011年12月、仲間うちで開いた忘年会に、大胡田誠さんが、音楽家をしている妻の大石亜矢子さんと0歳のころちゃんを連れてきてくれました。その時亜矢子さんが歌ってくれた自作の歌や、アカペラの「アメィジング・グレイス」に深く感動し、その時から、いつか必ず、魚沼で、夢草堂で、亜矢子さんのコンサートをやりたいと心に決めていました。1人産んだだけでも驚いたのに、1年後にもう1人子どもを産んで、全盲の夫婦が2児の子育てをしている。一体どうやって?! 聞いてみたい話がたくさん頭に浮かびます。そこで二人のお話も聞けるトーク&コンサートという企画を2013年10月6日浦佐の夢草堂で実現することができました。外で遊んでいた長女のころちゃんが野の花をママとパパに持ってきて、コンサートは大いに盛り上がりました。「あの感動を今年は小中高生と共にもう一度!」大勢の方のご参加をお待ちしています。

友人 黒岩 海映

<地域の皆様に>

人は誰もその人生で幾多の困難に出会います。今、浦佐小学校に在籍する262名の子どもたちにもそれぞれの困難が待ち構えています。子どもたち一人一人にどんな困難に出会っても打ち勝って、ステキな人生を過ごしてほしいと思います。今回、浦佐小学校は自ら困難に打ち勝ち、ステキな生き方を実践しておられる大石&大胡田ご夫妻からご講演をいただく機会を得ました。子どもたちには何事もあきらめない自分づくりの姿勢を大石&大胡田ご夫妻のご講演から多くを学んでほしいと思います。当日は子どもたちだけでなく、地域の皆様も大歓迎です。多くの皆様のご来場をお待ち申し上げます。

南魚沼市立浦佐小学校長 戸田 周一

お二人とも一流の職業人として活躍されながら、子どもさん二人の子育てもバンバンやっておられる。私もかつて県立盲学校に勤務した経験があるので、全盲のご夫妻の今に至るまでの道のりが、いかに大変だったか。そのいったんは想像することができます。子どもたちにとっても、地域の皆様にとっても、涙あり笑いありの、心に、染みる「トーク&コンサート」になると思います。多くの皆様からお越しいただけることを、心待ちにしています。

南魚沼市立総合支援学校長 青木 仁